

研修報告書 No. 2

所 属： 三豊総合病院
氏 名： 守谷 直人
研修先： 大井田病院

今回、私は地域医療研修として、高知県宿毛市の大井田病院で研修を行いました。

幡多医療圏における大井田病院の役割は、地域のかかりつけ病院や回復期病床だけでなく救急医療も担っており、研修前に想像していた以上に幅広い医療を行っていました。宿毛市は全国的にみても高齢化が進んでおり、大井田病院は高齢者医療の先駆けとして訪問診療や遠隔診療を積極的に取り入れたり、AI 問診や近隣病院のカルテ記載や検査所見を共有できる「はたまるネット」を取り入れたりすることで、高齢者の生活に寄り添う医療を展開していました。香川県にも「K-mix」というシステムがあり病院間の連携は進んでいるものの、使用するのに少しハードルを感じることもあるため幡多医療圏の病院間連携には特に感銘を受けました。大井田病院の先生方は内科外科問わず患者の診療を行っており、患者の性格や社会的背景を考慮しながら最善の治療を提案するというような、まさしく全人的医療を実践している姿を学びました。私の研修病院には各科の専門医が常勤しており軽い症状でも専門家の医師にコンサルトができる環境で診療をしていましたが、かかりつけ医では患者の症状をすべて見る能力が必要とされるということを実感しました。心臓や腹部だけでなく、肩や膝など運動器もエコーで評価したり、真菌を KOH 法で顕微鏡観察したり、褥瘡の処置を行ったりと今まで経験できていなかった手技をたくさん学べました。

私の中で、研修期間中最も記憶に残る出来事は豊後水道の地震でした。大井田病院の地域は南海トラフ地震の際に 5～10m の津波が推定されています。医師として災害時に医療救護活動を行う訓練が必要であるということ、身をもって体感しました。保健所で研修を行った際には今後起こりうる災害に対する備えを学びました。南海トラフ地震では関東から九州にかけての広い地域で甚大な被害が予想されるため、前方展開型の医療救護活動が必要と言われています。前方展開型という考え方をあまり聞いたことがなかったのですが、県外からの支援が望めず県内の限られた医療資源・医療従事者を最大限に活用するために、重症患者をヘリで県中央部へ搬送しつつ、DMAT 等の医療支援チームの派遣を行うといった対策が講じられていることを学びました。

4 週間と短い間ではありましたが、熱心にご指導いただいた先生方や、病院で明るく挨拶をしてくださり慣れない環境の中で色々な相談に乗ってくださったスタッフの方々のおかげで本当に楽しくてあっという間の研修となりました。今後はスペシャリストとして専門性を高めるだけでなく患者の悩みに幅広く対応できるジェネラリストとしての知識や技術も高めていかなければならないと感じました。地域医療というのは様々な解釈があると思

いますが、今回の研修を経て地域医療とは急性期から慢性期という医療的な面だけでなく、患者の社会的背景や退院後の生活も含めた患者の人生に寄り添う医療を行うものなのではないかという自分なりの解釈を持つことができました。外科医を志す医師として、臨床スキルを磨くだけでなく患者背景や退院後の生活まで考慮した医療を展開できるように今後より一層精進して参ります。